

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
 高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

分科会Ⅲ  
 臓器がん登録の現状と成果  
 そしてその今後の在り方に関する研究

## 小児がん登録の今後の在り方 昨年度からの進展と課題

分担研究者：	ご所属 九州大学小児外科 お名前 木下義晶
小児がん登録運営母体：	日本小児血液・がん学会

### A. 臓器がん登録のシステムについて

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	現状カバー率	要改善	目標	検討中の対策
肺がん	手術例の30%	要改善	50%	NCDデータの利用
大腸がん	6~7%	要改善	未定	具体案まだ
腎がん	20%	要改善	80%	NCDで専門医制度と関連させる
前立腺がん	20%	要改善	80%	NCDで専門医制度と関連させる
婦人科がん	60~70%	要改善	80-90%	専門医基幹施設等への周知
小児がん	80%	要改善		複数の登録事業が並列→集約？
皮膚がん	20%（メラノーマ） 40%（皮膚リンパ腫）	要改善	≥50%	皮膚がん診療・登録拠点の拡大
甲状腺がん	不明	要改善		耳鼻科・頭頸部外科からの登録整備
制吐薬GL	NA			

### A. 臓器がん登録のシステムについて

カバー率を向上させる対策  
 昨年度からの進展と課題・問題点について

対策の進展についてご記載下さい（自由記載）

複数の学会登録の統合と研究グループの登録事業との連携作業を現在行っており、来年度以降で新システムが運用される見込み

課題・問題点についてご記載下さい（自由記載）

脳腫瘍、骨軟部腫瘍、眼腫瘍などは既存の学会登録との連携について今後も検討が必要

### B. NCDとの連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	連携の予定	目的	連携項目
肺がん	連携予定・時期未定	○ ○	一部項目
大腸がん	連携予定・時期未定	△	一部項目
腎がん	連携予定・時期未定	○ ○	未定
前立腺がん	連携予定・時期未定	○ ○	未定
婦人科がん	×		
小児がん	連携予定・時期未定	○ ○ ○	未定
皮膚がん	×		
甲状腺がん	2016年から実装	○ ○	すべて（予後含む）
制吐薬GL	NA		

### B. NCDとの連携について：甲状腺がん

甲状腺がん （岡本先生）	回答
NCD実装後の変化	改善された点についてご記載下さい
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制 など	今後の課題と対策についてご記載下さい

### B. NCDとの連携について：小児がん

甲状腺がん以外	回答
NCDとの連携の予定	<input type="checkbox"/> ① すでに実装：20XX 年から <input type="checkbox"/> ② 今後、連携の予定：20XX 年から実装予定 or 未定 <input checked="" type="checkbox"/> ③ NCDとの連携は考えていない
①の場合 NCD実装後の変化	NCDに実装して改善された点についてご記載下さい
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制 など	NCD実装後の今後の課題についてご記載下さい
②の場合	NCDに実装するための課題についてご記載下さい
③の場合	NCDとの連携を考えた理由についてご記載下さい ・ 全数把握を目的とする学会登録と手術症例を登録することを基本とするNCDでは目的に乖離がある。 ・ 新規学会登録のシステムとNCDとの突合ができないため。

### C. Registryの対象となるがん種について重複が想定される学会との連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

扱う疾患が重複している学会等

日本小児血液・がん学会 ⇔ JCCG（日本小児がん研究グループ）  
 固形腫瘍観察研究事業および小児血液腫瘍性疾患の前方視的研究、  
 日本血液学会 疾患登録事業、  
 日本小児外科学会 悪性腫瘍登録事業  
 小児がん全国登録

日本皮膚悪性腫瘍学会 ⇔ 日本皮膚科学会  
 日本形成外科学会

日本甲状腺外科学会 ⇔ 耳鼻科、頭頸部外科の学会

### C. Registryの対象となるがん種について重複が想定される学会との連携について

設問	回答
重複が想定される学会があるか	<input checked="" type="checkbox"/> ① あり <input type="checkbox"/> ② なし
①ありの場合	重複が想定される学会名を列挙して下さい(1,2,3は統合予定) 1.日本小児血液・がん学会 2.日本小児外科学会 悪性腫瘍登録 3.小児がん全国登録 4.JCCG固形腫瘍観察研究事業および小児血液腫瘍性疾患の前方視的研究 5.日本血液学会 疾患登録事業
①ありの場合、重複が想定される学会との連携は？	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 連携あり <input type="checkbox"/> ④ 連携なし
③連携ありの場合	連携の現状と今後の課題について記載して下さい 1,2,3は統合予定 1,2,3が統合されたものと4は連携予定
④連携なしの場合	<input type="checkbox"/> ⑤ 連携の予定あり <input type="checkbox"/> ⑥ 連携の予定なし
⑤連携の予定ありの場合	連携のための課題について記載して下さい
⑥連携の予定なし	連携に関するお考えを記載して下さい

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

領域	利用ルール	利用した研究	GL等への反映
肺がん	体制あり	あり	あり
大腸がん	体制あり	あり	あり
腎がん	体制あり	あり	未
前立腺がん	体制あり	あり	未
婦人科がん	未	あり	未
小児がん	体制あり	あり	あり
皮膚がん	未	あり	あり
甲状腺がん	未	未	未
制吐薬GL	未	未	未

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

設問	回答
成果のガイドラインへの反映	<input checked="" type="checkbox"/> ①すでに行われている <input type="checkbox"/> ②これから
①すでに行われている場合	<input type="checkbox"/> ③現状でOK <input checked="" type="checkbox"/> ④利活用のために改善が必要 ↓ ④の場合、具体的な方策について ( 悉皆性やデータの精度を高めるための方策が必要 臨床情報、追跡情報を収集することで利活用の促進を図る )
②これからの場合	反映させるための方策について記載して下さい

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

#### 1) 期待すること

- ・ 生存/死亡データの確かさ
- ・ 重複する項目のデータを臓器がん登録に流用できれば ...

#### 2) 懸念点・ハードル

- ・ 直接リンクは (NCDも臓器がん登録も) 不可
- ・ 自施設の予後データはすんなり入手できるのか?
- ・ どのような形での連携なら可能か?

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

設問	回答
連携するメリットはあると思いますか?	お考えを記載して下さい (自由記載) 悉皆性やデータの精度を上げることが可能?
連携するための課題と対応策について	お考えを記載して下さい (自由記載) データの突合 登録のICの際に全国がん登録のデータ利用について同意を得る。
全国がん登録に期待すること	お考えを記載して下さい (自由記載) データ開示までの時間短縮

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
 高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

分科会Ⅲ  
 臓器がん登録の現状と成果  
 そしてその今後の在り方に関する研究

## 大腸がん登録の今後の在り方 昨年度からの進展と課題

分担研究者：	ご所属 東京都立広尾病院外科 お名前 小林 宏寿
大腸がん登録運営母体：	学会名etc 大腸癌研究会

### A. 臓器がん登録のシステムについて

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	現状カバー率	要改善	目標	検討中の対策
肺がん	手術例の30%	要改善	50%	NCDデータの利用
大腸がん	6~7%	要改善	未定	具体案まだ
腎がん	20%	要改善	80%	NCDで専門医制度と関連させる
前立腺がん	20%	要改善	80%	NCDで専門医制度と関連させる
婦人科がん	60~70%	要改善	80-90%	専門医基幹施設等への周知
小児がん	80%	要改善		複数の登録事業が並列→集約？
皮膚がん	20%（メラノーマ） 40%（皮膚リンパ腫）	要改善	≥50%	皮膚がん診療・登録拠点の拡大
甲状腺がん	不明	要改善		耳鼻科・頭頸部外科からの登録整備
制吐薬GL	NA			

### A. 臓器がん登録のシステムについて

カバー率を向上させる対策  
 昨年度からの進展と課題・問題点について

対策の進展についてご記載下さい（自由記載）

NCDとの連携について、大腸癌研究会全国登録委員会にて検討中。

課題・問題点についてご記載下さい（自由記載）

NCDと連携した場合、自由にデータ使用できなくなり、規約改定やガイドライン改定における検討のためのデータ使用に迅速に対応できなくなる。  
 また、大腸癌研究会では専門医制度を有していないので、NCDと連携したとしても、悉皆性向上にどれほど寄与するかは不明。

### B. NCDとの連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	連携の予定	目的				連携項目
		専門医制度	悉皆性カバー率向上	手間の軽減	DB管理体制	
肺がん	連携予定・時期未定		○	○		一部項目
大腸がん	連携予定・時期未定		△			一部項目
腎がん	連携予定・時期未定	○	○		○	未定
前立腺がん	連携予定・時期未定	○	○		○	未定
婦人科がん	×					
小児がん	連携予定・時期未定	○	○	○		一部項目
皮膚がん	×					
甲状腺がん	2016年から実装		○	○		すべて（予後含む）
制吐薬GL	NA					

### B. NCDとの連携について：甲状腺がん

甲状腺がん（岡本先生）	回答
NCD実装後の変化	改善された点についてご記載下さい
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制など	今後の課題と対策についてご記載下さい

### B. NCDとの連携について：甲状腺がん以外

甲状腺がん以外	回答
NCDとの連携の予定	<input type="checkbox"/> ① すでに実装：20XX年 <input checked="" type="checkbox"/> ② 今後、連携の予定：未定 <input type="checkbox"/> ③ NCDとの連携は考えていない
①の場合 NCD実装後の変化	NCDに実装して改善された点についてご記載下さい
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制など	NCD実装後の今後の課題についてご記載下さい
②の場合	NCDに実装するための課題についてご記載下さい データ利用の制限、悉皆性担保の方法（他学会との連携？）
③の場合	NCDとの連携を考えた理由についてご記載下さい

### C. Registryの対象となるがん種について 重複が想定される学会との連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

扱う疾患が重複している学会等

日本小児血液・がん学会 ⇔ JCCG（日本小児がん研究グループ）  
 固形腫瘍観察研究事業および小児血液腫瘍性疾患の前方視的研究、  
 日本血液学会 疾患登録事業、  
 日本小児外科学会 悪性腫瘍登録事業

日本皮膚悪性腫瘍学会 ⇔ 日本皮膚科学会  
 日本形成外科学会

日本甲状腺外科学会 ⇔ 耳鼻科、頭頸部外科の学会

### C. Registryの対象となるがん種について 重複が想定される学会との連携について

設問	回答
重複が想定される学会があるか	<input type="checkbox"/> ① あり <input checked="" type="checkbox"/> ② なし
①ありの場合	重複が想定される学会名を列挙して下さい
①ありの場合、重複が想定される学会との連携は？	<input type="checkbox"/> ③ 連携あり <input type="checkbox"/> ④ 連携なし
③連携ありの場合	連携の現状と今後の課題について記載して下さい
④連携なしの場合	<input type="checkbox"/> ⑤ 連携の予定あり <input type="checkbox"/> ⑥ 連携の予定なし
⑤連携の予定ありの場合	連携のための課題について記載して下さい
⑥連携の予定なし	連携に関するお考えを記載して下さい

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

領域	利用ルール	利用した研究	GL等への反映
肺がん	体制あり	あり	あり
大腸がん	体制あり	あり	あり
腎がん	体制あり	あり	未
前立腺がん	体制あり	あり	未
婦人科がん	未	あり	未
小児がん	未	未	未
皮膚がん	未	あり	あり
甲状腺がん	未	未	未
制吐薬GL	未	未	未

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

設問	回答
成果のガイドラインへの反映	<input checked="" type="checkbox"/> ①すでに行われている <input type="checkbox"/> ②これから
①すでに行われている場合	<input checked="" type="checkbox"/> ③現状でOK <input type="checkbox"/> ④利活用のために改善が必要 ↓ ④の場合、具体的な方策について ( )
②これからの場合	反映させるための方策について記載して下さい

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

#### 1) 期待すること

- ・ 生存/死亡データの確かさ
- ・ 重複する項目のデータを臓器がん登録に流用できれば ...

#### 2) 懸念点・ハードル

- ・ 直接リンクは（NCDも臓器がん登録も）不可
- ・ 自施設の予後データはすんなり入手できるのか？
- ・ どのような形での連携なら可能か？

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

設問	回答
連携するメリットはあると思いますか？	あると思います。
連携するための課題と対応策について	どのようにしてお互いの症例の互換を図るか。現状では全国登録で得た予後情報を臓器がん登録では利用できないと思いますが、各がん登録におけるデータの相互利用の可能性について検討が必要だと思います。
全国がん登録に期待すること	全て洩れなくがん症例の登録を行っていただくこと。また、それらのデータを臓器がん登録でも活用できるように工夫が必要と考えます。

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
 高質診療データベースの構築とNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

分科会Ⅲ  
 臓器がん登録の現状と成果  
 そしてその今後の在り方に関する研究

## 肺がん登録の今後の在り方 昨年度からの進展と課題

分担研究者：	名古屋大学：横井香平 鹿兒島大学：佐藤雅美
肺がん登録運営母体：	肺癌登録合同委員会：日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本呼吸器学会

### A. 臓器がん登録のシステムについて

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	現状カバー率	目標	検討中の対策
肺がん	手術例の30%	要改善 50%	NCDデータの利用
大腸がん	6~7%	要改善 未定	具体案まだ
腎がん	20%	要改善 80%	NCDで専門医制度と関連させる
前立腺がん	20%	要改善 80%	NCDで専門医制度と関連させる
婦人科がん	60~70%	要改善 80-90%	専門医基幹施設等への周知
小児がん	80%	要改善	複数の登録事業が並列→集約？
皮膚がん	20%（メラノーマ） 40%（皮膚リンパ腫）	要改善 ≥50%	皮膚がん診療・登録拠点の拡大
甲状腺がん	不明	要改善	耳鼻科・頭頸部外科からの登録整備
制吐薬GL	NA		

### A. 臓器がん登録のシステムについて

カバー率を向上させる対策  
 昨年度からの進展と課題・問題点について

- 肺癌登録合同委員会にて、NCDデータの活用について検討を開始する
- 一部の治療法に関して、呼吸器内科分野の登録が動き出そうとしているらしい
- 呼吸器外科における肺癌切除例の98%程度はNCDで切除時の病理も含めた入力されている、また入力項目もTNM ver8に本年1月から対応している

課題・問題点についてご記載下さい。

- 内科的治療例の登録とそのカバー率の向上、免疫チェックポイント阻害剤などの登場による長期予後把握の必要性
- 登録業務に対するインセンティブ
- NCDでは、登録症例に関して予後情報が入力されない

### B. NCDとの連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

領域	連携の予定	目的	連携項目
肺がん	連携予定・時期未定	専門医制度 ○	一部項目
大腸がん	連携予定・時期未定	○	一部項目
腎がん	連携予定・時期未定	○	未定
前立腺がん	連携予定・時期未定	○	未定
婦人科がん	×		
小児がん	連携予定・時期未定	○	一部項目
皮膚がん	×		
甲状腺がん	2016年から実装	○	すべて（予後含む）
制吐薬GL	NA		

### B. NCDとの連携について：甲状腺がん

甲状腺がん（岡本先生）	回答
NCD実装後の変化	改善された点についてご記載下さい
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制 など	今後の課題と対策についてご記載下さい

### B. NCDとの連携について：肺がん

甲状腺がん以外	回答
NCDとの連携の予定	① すでに実装：手術症例の集計（長期予後は含めない）
①の場合 NCD実装後の変化	NCDに実装して改善された点についてご記載下さい ・ 毎年呼吸器外科および胸部外科学会の学術調査として実施していた集計が不要となった ・ 専門医制度の申請・更新にも活用している
専門医制度とのリンク カバー率の向上 手間の軽減 データベース管理体制 など	NCD実装後の今後の課題についてご記載下さい ・ 専門医制度などでの活用は行われているが、がん登録としての活用は行われていない
②の場合	NCDに実装するための課題についてご記載下さい ・ がん登録のために実装した場合の費用 ・ 登録項目の追加・削除の自由度の確保 ・ 学術調査の自由度、費用負担
③の場合	NCDとの連携を考えない理由についてご記載下さい

### C. Registryの対象となるがん種について 重複が想定される学会との連携について

昨年度の調査は以下の通りです。  
 次のスライドの質問にお答えください。

扱う疾患が重複している学会等

日本小児血液・がん学会 ⇔ JCCG（日本小児がん研究グループ）  
 固形腫瘍観察研究事業および小児血液腫瘍性疾患の前方視的研究、  
 日本血液学会 疾患登録事業、  
 日本小児外科学会 悪性腫瘍登録事業

日本皮膚悪性腫瘍学会 ⇔ 日本皮膚科学会  
 日本形成外科学会

日本甲状腺外科学会 ⇔ 耳鼻科、頭頸部外科の学会

### C. Registryの対象となるがん種について 重複が想定される学会との連携について

設問	回答
重複が想定される学会があるか	① あり
①ありの場合	重複が想定される学会名を列挙して下さい：日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本呼吸器病学会、日本胸部外科学会、日本癌治療学会
①ありの場合、重複が想定される学会との連携は？	③連携あり（全てではないが）
③連携ありの場合	連携の現状と今後の課題について記載して下さい ・ 前4学会に日本胸部外科学会が参画する予定 ・ 免疫チェックポイント阻害剤に関して、日本肺癌学会と日本癌治療学会が共同で投与後調査を予定 ・ 学術調査の自由度の確保 ・ 費用負担 ・ 調査項目新設の柔軟性・自由度の確保
④連携なしの場合	□ ⑤連携の予定あり □ ⑥連携の予定なし
⑤連携の予定ありの場合	連携のための課題について記載して下さい

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

領域	利用ルール	利用した研究	GL等への反映
肺がん	体制あり	あり	あり
大腸がん	体制あり	あり	あり
腎がん	体制あり	あり	未
前立腺がん	体制あり	あり	未
婦人科がん	未	あり	未
小児がん	未	未	未
皮膚がん	未	あり	あり
甲状腺がん	未	未	未
制吐薬GL	未	未	未

### D. 臓器がん登録データの利活用推進について

設問	回答
成果のガイドラインへの反映	①すでに行われている
①すでに行われている場合	④利活用のために改善が必要 ↓ ④の場合、具体的な方策について ・ 利活用の自由度を向上させる（自己責任での研究発表を許可するなど） ・ 学会自体による調査研究
	②これからの場合

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

昨年度の調査は以下の通りです。  
次のスライドの質問にお答えください。

- 1) 期待すること
  - ・ 生存/死亡データの確かさ
  - ・ 重複する項目のデータを臓器がん登録に流用できれば ...

---

- 2) 懸念点・ハードル
  - ・ 直接リンクは（NCDも臓器がん登録も）不可
  - ・ 自施設の予後データはすんなり入手できるのか？
  - ・ どのような形での連携なら可能か？

### E. 全国がん登録と臓器がん登録の連携 について 展望と課題～臓器がん登録の立場から

設問	回答
連携するメリットはあると思いますか？	お考えを記載して下さい（自由記載） ・ 本来、連携すべきである ・ 重複する仕事を軽減する ・ データの信頼性を担保するなどの面から
連携するための課題と対応策について	お考えを記載して下さい（自由記載） ・ 個人情報保護法の弊害
全国がん登録に期待すること	お考えを記載して下さい（自由記載） ・ 早急に医療マイナンバー制度の活用として、3つのがん登録での活用と医療現場へのフィードバックを ・ 登録業務を行った登録施設（者）への還元